



東邦大学医療センター大橋病院
糖尿病・代謝・内分泌内科
講師 大平 征宏

「糖尿病に対して通院、入院で幅広く対応します」

はじめに

厚生労働省の調査では、糖尿病が強く疑われる人および糖尿病の可能性が否定できない人は全国で約2,000万人いるとされています。糖尿病は脳梗塞や心筋梗塞といった大血管障害だけでなく、網膜症、腎症

といった細小血管障害を引き起こします。また、2型糖尿病患者では癌、認知症、骨折の発症が多くなることも言われています。実際に千葉市骨粗鬆症検診のデータでは、2型糖尿病は骨脆弱性のリスクとなっています（表1）。したがって、高齢社会である現在は、これまで以上に糖尿病の治療が重要になっています。

表1. 直近5年以内の骨折の腫むと2型糖尿病との関係*1

	直近5年以内の骨折有り	直近5年以内の骨折無し	P 値
2型糖尿病の罹患率(%)*2	4.2	3.2	0.0057

*1: 直近5年以内に骨折している人は骨脆弱性があるとみなしている。

*2: 2型糖尿病の罹患率は、両群間で差があったBMI、大腿骨頸部骨折の家族歴、腎疾患の有無などを補正して解析している。

Ohira M, et al. Am J Med Sci. 360(5):552-559.
表を一部改変。

糖尿病の病態、患者背景に合わせた薬剤選択

2型糖尿病の病態で重要なものとして、インスリン抵抗性とインスリン分泌低下があります。近年糖尿病治療薬として新しい製剤が数多く市場されていますが、それらの製剤を図1のように病態に合わせて投与し、血糖コントロールをしていく必要があります。また、図2に示す世界共通の2型糖尿病患者への薬物治療ガイドラインでは大血管合併症の有無やリスク、心不全およびCKDの有無により使用が推奨される薬剤が異なります。さらに、低血糖を起こさない、体重増加させないまたは減少させる、薬剤のコストを優先する等の目的によっても使用が推奨される薬剤が異なります。これら以外にも、図3のように日本糖尿病学会から高齢者向けの血糖コントロール目標が別に出ており、年齢や使用している薬剤により血糖コントロールの目標に違いがあります。したがって、糖尿病治療はただ単に血糖値を下げるだけでなく、目の前の患者さんについて

の色々な情報を把握し、それに見合う治療目標を設定し薬剤選択をする必要があります。当院ではこれらを踏まえて患者さんの病態だけではなく全身状態、年齢、生活背景などを把握し糖尿病治療を行っております。その中でもHbA1cが10%を超えるような方は入院での治療が理想ですが、仕事や家庭環境等との兼ね合いで入院治療が困難な患者さんも数多くみられます。このような方でも当院では外来での注射製剤の導入、持続血糖モニタリングを装着し血糖値の変動を把握することで通院での対応も可能です。

図1. 病態に合わせた経口血糖降下薬の選択

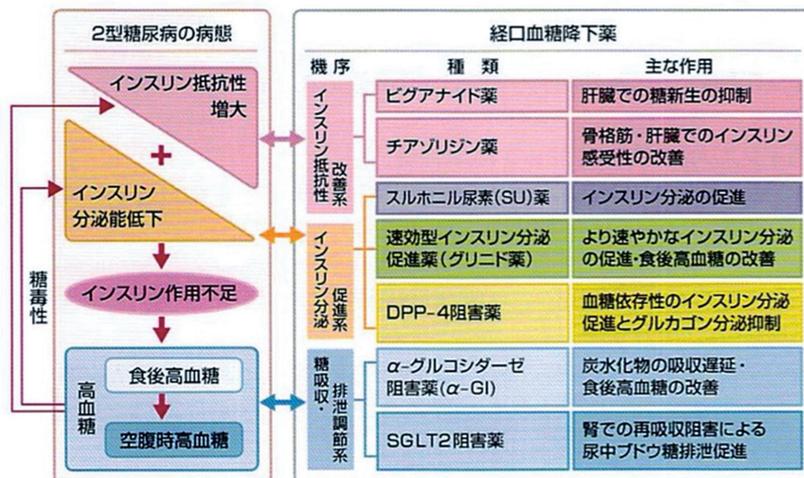
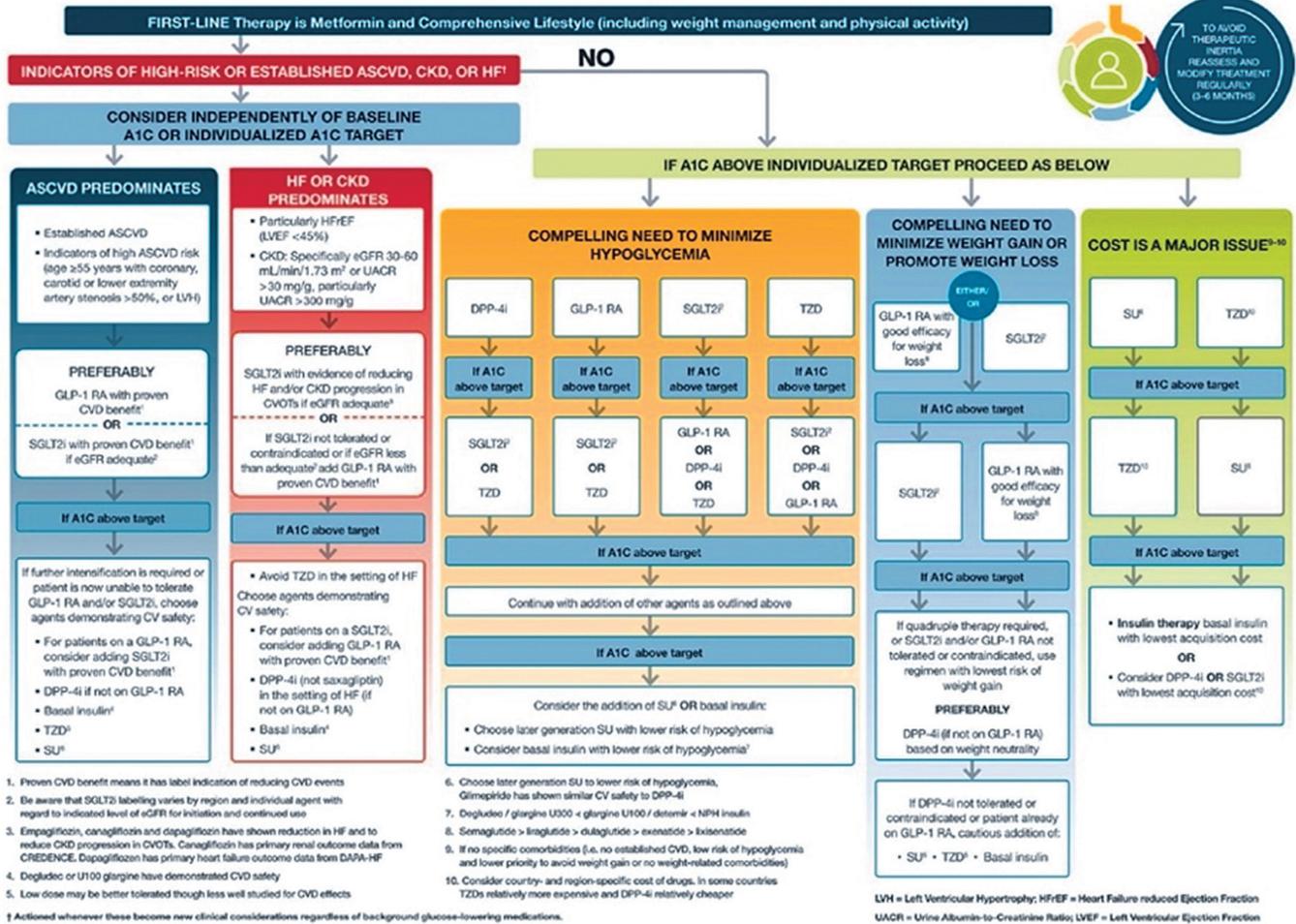


図 2. 2型糖尿病の薬物治療ガイドライン



Doyle-Delgado K, et al. Ann Intern Med, 2020.

図 3. 高齢者糖尿病の血糖コントロール目標 (HbA1c値)

患者の特徴・健康状態 ^{注1)}	カテゴリーⅠ		カテゴリーⅡ	カテゴリーⅢ
	①認知機能正常 かつ ②ADL自立		①軽度認知障害～軽度認知症 または ②手段的ADL低下, 基本的ADL自立	①中等度以上の認知症 または ②基本的ADL低下 または ③多くの併存疾患や機能障害
重症低血糖が危惧される薬剤(インスリン製剤, SU薬, グリニド薬など)の使用	なし ^{注2)}	7.0%未満	7.0%未満	8.0%未満
	あり ^{注3)}	65歳以上75歳未満 7.5%未満 (下限6.5%)	75歳以上 8.0%未満 (下限7.0%)	8.5%未満 (下限7.5%)

糖尿病治療ガイドより

おわりに
特にこの約10年、新しい糖尿病治療薬が数多く投与できるようになり、それに加えて数多くの大規模試験の結果も出ております。日々変化している糖尿病治療において、当院では糖尿病患者さんに対し通院、入院で幅広く対応いたします。

■外来診察日：月曜午前、水曜午前・午後、金曜午後

診療のご予約は・・・
病診連携部門あてに「診察・検査FAX予約申込書」をお送り下さい。
病診連携連絡先
病診連携部門
TEL: 03-3481-7385 FAX: 03-3468-6191

東邦大学 | 大橋病院
Toho University Ohashi Medical Center
〒153-8515 東京都目黒区大橋2-22-36 電話 03-3468-1251
http://www.ohashi_med.toho-u.ac.jp/
携帯用サイト http://www.ohashi_med.toho-u.ac.jp/m/